

熊本県八代工業用水道事業の紹介

○事業の主旨

八代工業用水道は、昭和39年に不知火・有明地域が新産業都市の指定を受けたのを契機に、八代市の臨海工業団地の立地企業に工業用水を供給するため、当初計画給水量50,000m³/日で建設した。

○事業の経緯

工業用水を取水する新遙拝堰は、球磨川に熊本県、日本製紙(株)、(株)興人及び農水省の4者により昭和41年度に着工され、昭和43年度に完成した。

また、浄水施設等の建設は、昭和43年度に着手し、昭和51年度末にはほぼ完成したことから、昭和52年4月に給水を開始し、その後、昭和53年3月に施設整備を完了した。

○ユーザーの概要

(平成20年10月末現在)

業種	給水件数	契約水量 (m ³ /日)
建設	2	12
食料品	2	160
木製品	6	442
鉄鋼	1	10
金属	1	8,000
一般機械	1	110
輸送	1	240
運輸	4	123
卸売	1	4
その他	5	87
合計	24	9,188

○施設の概要

球磨川を水源とし、新遙拝堰から取水し、自然流下方式により、農業用水との共同施設である北岸導水路から沈砂池を経て、太田、松高用水路、導水管路等9,900mを経て、白島浄水場へ導水している。浄水処理された水は、約2,500mの配水管を経て、臨海工業団地へ配水している。

配水本管の直径は700～800mmで、延長は約2.5kmとなっている。

取水施設から浄水場までの導水路及び管路は、熊本県、日本製紙(株)、(株)興人、八代平野北部土地改良区及び上天草・宇城水道企業団等との共同施設となっており、施設管理は委託を受けて、八代平野北部土地改良区及び熊本県企業局が行っている。

浄水場から工業団地までの配水施設が、熊本県企業局の単独施設である。

○事業の特徴

当初から契約水量が少なく、給水能力50,000m³/日に対し、契約水量が9,300m³/日程度と契約率が約19%であったため、平成10年度に、工業用水の大幅な需要増は将来にわたって期待できないこと、また、水資源の有効活用の観点から、工業用水の需給計画を見直し、上天草・宇城地域の生活用水の不足に対応するため、水利権の一部22,700m³/日を上天草・宇城水道企業団の上水道へ転用した。そのため、給水能力は27,300m³/日となった。

○熊本県企業局のホームページ

<http://www.pref.kumamoto.jp/construction/section/kgigyokuyoku/index.htm>

給水系統を含む給水区域図



八代工業用水道概略図

